



▶各会員生協が、日頃のせっけんの取り組みに使っている紙芝居やポスターなど手作りのグッズを展示しました

グリーンコープ  
共同体  
組織委員会  
主催

2019年度 せっけん学習会

# せっけんを使って 暮らしを変えよう



グリーンコープは、私たち一人ひとりが環境を守るためにできることとして、生活の中の「洗う」場面すべてに、合成洗剤ではなく、せっけんの利用を呼びかけています。

3月20日、せっけんについて理解を深め、会員生協での取り組みにつなげようと、共同体組織委員会主催「2019年度せっけん学習会」が福岡市で開催され、110人が参加しました。

学習会では、NPO法人有害化学物質削減ネットワーク(Tウオッチ)理事長の中地重晴さんから、せっけんの良さや合成洗剤を含む化学物質の危険性、「香害」<sup>かこうがい</sup>について話を聞きました。

学習会の始めに、共同体組織委員会の亀崎恵理子さんが、「グリーンコープはせっけん運動に取り組み、年間を通してせっけんの利用をすすめています。しかし、せっけんの利用は伸び悩んでいます。せっけんは合成洗剤の悪い、合成洗剤の問題点、香料や柔軟剤などの問題についてきちんと知ること、せっけんをアピールする言葉に説得力を持たせることができると思います」と挨拶しました。

学び、利用してきました。現在のせっけんも、菜種油、ヤシ油、米ヌカ油、牛脂などの動植物油脂を原料に、アルカリを反応させて作ります。組成が単純なので分解されやすく、環境に負荷をかけません。

また、汚れ落ちや泡切れが良く、肌への刺激も少ないなどの特長があります。

## 合成洗剤の危険性

第2次世界大戦以降、石油から生成された化学物質を原料とした合成洗剤が、大々的に売り出されるようになりました。

ミネラル分が多い硬水でも洗う力が変わらないので、世界中で広く使われています。

合成洗剤は化学的に安定しているため、環境中に排出された後も微生物によって分解されにくく、98%を分解するには水の中で1カ月ほどかかると言われています。その間に水生生物へ及ぼす影響や、人間への健康被害が問題になっています。家庭用の合成洗剤などには、いろいろな化学物質が使われています。例えば、塩素系漂白剤には次亜塩素酸ナトリウムが含まれています。次亜塩素酸ナトリウムと温泉成分に含まれるイオウを混ぜると、硫化水素という有害な物質ができる危険性があります。薬用せっけんやトイレ用の洗浄剤などには、トリクロサンや次亜塩素酸ナトリウムなどが含まれています。トリクロサンには、ダイオキシンが不純物として含まれていることが問題になり、アメリカでは製造が中止されていますが、日本ではそこまで厳しくないのが現状です。

## 私たちは化学物質に囲まれて暮らしている

世界中で工業的に使われている化学物質は、約10万ほどで、研究用などを含めると約1億にもなります。そのうち日本で使われている物質は5〜6万と言われ、様々なかたちで私たちの周りに排出されています。

工場から排出されるガス、自動車の排ガスにも有害な物質が含まれます。ごみ処分場や清掃工場からもダイオキシンなどの有害物質が出ている可能性があります。家庭では、住宅建材の接着剤に含まれるホルムアルデヒドが問題になりました。農業では、農薬や化学肥料の

使用、畜産では、人間には使われなくなったホルモン剤・成長剤・鎮痛剤などの薬品を家畜の体調管理に用いていることも多く、排泄物などを含んだ廃水が河川へ流れ込みます。医薬品として人が飲む薬も、100%体内に吸収されずに排出されてしまうものもあります。様々な化学物質が下水道から河川へ入ります。河や海の底のヘドロを分析すると、50〜100の有害物質が検出されています。それらの物質が、食物連鎖で濃縮された魚介類の摂取や大気を通して知らず知らずのうちに私たちの身体に取り込まれ、健康に悪影響を及ぼしています。

1980年代以降の増加の原因は外因性のものが多く、身体の外から取り込んだ化学物質に含まれる発がん成分が影響しているのではないかとされています。

## PRTRのデータから分かること

人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質がどれだけ排出されているかを知り、化学物質によるリスクを減らすために、国際的な取り組みとしてPRTRという制度が提案され、日本では2001年からスタートしています。国が集計・公表するために、対象となる事業者は、環境中に排出した化学物質の量を把握して、年1回届け出ることが義務付けられています。

## 「香り」による健康被害が深刻に

ジャスミンの香りは脳の活動を活性化させる、ラベンダーの香りは沈静化させるなど、これまで香りは、人間の心理に大きく作用し、良い効果をもたらすような捉え方がされてきました。しかし今、柔軟剤や合成洗剤に使われる芳香剤中の合成香料による健康被害を訴えている人たちが増えています。

合成香料の成分となっている化学物質が脳の中に侵入して、頭痛や不眠、倦怠感、吐き気、湿疹など様々な症状を引き起こします。個人差はありますが、身体の中に取込むことによって化学物質過敏症を発症してしまう場合があります。香水に使われている香料の中には、フタル酸エステル類のような環境ホルモンの作用が強いものもあり、成分そのものの有害性も問題です。

安全なせっけんを使って、シンプルで環境にやさしい生活をして、暮らしのあり方を変えていきましょう。

※1非常に微量の薬物や化学物質(主に揮発性有機化合物)の曝露であっても健康被害を引き起こせるとする疾病概念

※2正式には「外因性内分泌かく乱化学物質」。生物やヒトの体内のホルモンの働きをかく乱する作用を持つ化学物質の総称

歴史が証明する  
せっけんの安全性

せっけんの歴史は古く、ギリシャ・ローマ時代に遡ります。焼いた肉から落ちた脂が混ざった灰を使って洗うと汚れが落ちるという経験から

学習会の終わりに、共同体組織委員長の佐々木美由紀さんが「化学物質は人間が便利さを求めて作り出したものですが、有害なものがたくさんあることを知りました。せっけんを選ぶ、未来を選ぶ。私たちは暮らし方を問われているんだと改めて感じています。7月にシャボン玉月間があります。たくさんさんの組合員にせっけんの良さを伝え利用をすすめていきましょう」と締めくくりました。